

## 「赤鼻のトナカイ」

学校長 笠原 究

12月になると、巷には様々なクリスマス・ソングが流れますね。みなさんにもそれぞれ思い入れのあるクリスマス・ソングがあることでしょう。数あるクリスマス・ソングの中でも、子供の頃から親しんだ楽曲と言えば「赤鼻のトナカイ」ではないでしょうか。「真っ赤なお鼻の」で始まるこの曲は、1948年にアメリカで発売された曲に日本の新田宣夫氏が訳を付けたものです。

真っ赤なお鼻の トナカイさんは  
いつもみんなの 笑い者  
でもその年の クリスマスの日  
サンタのおじさんは 言いました  
暗い夜道は ピカピカの  
おまへの鼻が 役に立つのさ  
いつも泣いてた トナカイさんは  
今宵こそはと 喜びました



英語の原曲(Rudolph the red-nosed reindeer)は以下のとおりです。横に試訳をつけてみました。

Rudolph, the red-nosed reindeer  
had a very shiny nose.  
And if you ever saw him,  
you would even say it glows.  
All of the other reindeer  
used to laugh and call him names.  
They never let poor Rudolph  
join in any reindeer games.  
Then one foggy Christmas Eve  
Santa came to say:  
"Rudolph with your nose so bright,  
won't you guide my sleigh tonight?"  
Then all the reindeer loved him  
as they shouted out with glee,  
Rudolph the red-nosed reindeer,  
you'll go down in history!

ルドルフ、赤いお鼻のトナカイは  
ピカピカ光る鼻を持っていた。  
もしルドルフを見たなら  
鼻が輝いてる！なんて言うかもしれない。  
ほかのトナカイたちは、  
笑ったり悪口を言ったりしていた。  
かれらはルドルフを  
決して仲間に入れなかった。  
ある霧の濃いクリスマスイブ  
サンタが来て言った。  
「ルドルフ、お前のその輝く鼻で、  
私のソリの道案内をしてくれないか」  
すると他のトナカイたちはルドルフを見直し  
はしゃぎながら叫んだ。  
「ルドルフ、赤鼻のトナカイ、  
君は歴史に名を残すよ。」

同じ曲の中に込められた情報量の差に驚かれたのではないのでしょうか。1つの音符に載せられるのは基本的に一つの音節(一息でいえる音のかたまり)です。日本語では例外はありますが基本的に一文字(1モーラ)が一音節になります。たとえば「か」という文字は基本的に[k]という子音と[a]という母音からできており、これを1モーラといいます。英語の場合、一文字が表すのは基本的にこうした[k]や[a]などの音素です。そして一つの母音に複数の子音が結びついて一つの音節を作ります。「ストライク」とカタカナで書くと5音節になりますが、英語のstrikeは1音節です。以上のようなわけで、同じ楽曲に込められる情報は英語のほうが圧倒的に多くなるのです。こうした違いを乗り越えて、細部をそぎ落としながら曲のエッセンスを伝えている新田氏の訳は見事というほかありません。

この曲の元になったのは、ロバート・メイという人が1938年に書いた詩だそうです。「他の人と違って、人はそれぞれに与えられた役割がある。神様が創った命はいつか幸せになる」というメッセージが込められています。附属小ではどのクラスでも、仲間のいいところを認め合おうとする活動が行われています。1年生の教室には「○○ちゃんのいいところ発見」というポスターが掲示されています。多様性があるからこそ世界は存在し、循環していくのだということ、違うから幸せになれることを、子供たちには学んでいってもらいたいと願っています。